

## 第7回世界水フォーラム デイリー速報 Vol.2



### 1、閣僚宣言 科学技術の推進に脚光

4月13日、慶州市・現代ホテルを会場に閣僚会合が行われ、閣僚宣言がまとめられました。

宣言は、統合水資源管理やグリーン成長など7つの視点で構成され、このうち水災害については、3月に仙台で開かれた国連世界防災会議の成果を踏まえた宣言となりました。今後増加する水災害に対する備えと強靱性の強化が急務であることを指摘した上で、流域レベルでの適切な国土管理・統合水資源管理、すなわち持続可能な水管理と計画が不可欠であることが強調されました。日本が主張する防災の主流化、水循環の視点が重視されていると言えるでしょう。また、韓国政府が今回の会合で強調する水問題解決に対する科学技術の重要性が盛り込まれたことも大きな特徴となりました。

Vol.2

1. 閣僚宣言
  2. 日韓中 水担当大臣が共同宣言
  3. 地域プロセスも慶州でスタート
  4. サニテーションを世界でリードJSC
  5. 「水・食・農」水田水管理ネットの展開 INWEPF ワークショップ
- 特集 1、今日の“人”  
特集 2、今日の“言葉”

## 2. 日本・韓国・中国 水担当大臣が「水政策革新」へ共同宣言



日本、韓国、中国 3 カ国による水担当大臣会合が 4 月 13 日に慶州市・現代ホテルで開かれ、太田昭宏国土交通大臣と韓国の柳一鎬国土交通部長官、中国の Jiao Yong 水利部副大臣が共同宣言を発表しました。宣言のテーマに「水政策革新のための協調的行動」を掲げ、水関連部門にさらなる資金投資を得るため、水政策の革新と改良が各国で促進されるべきとの認識に合意しました。

## 3. 地域プロセスも慶州でスタート



世界水フォーラムは、政治、課題、地域、科学技術の4つのプロセスに分類して議論を集約していきます。地域プロセスのアジア太平洋地域に関する議論はアジア・太平洋水フォーラム (APWF、事務局＝日本水フォーラム) がとりまとめ役を担います。アジア太平洋地域では、気候変動、食糧、グリーン成長など幅広い視点から 11 のグループセッションを展開します。日本の機関では水災害・リスクマネジメント国際センター (ICHARM) が洪水リスクと水災害、アジア河川流域機関ネットワーク (O、事務局＝水資源機構ほか) が統合的水資源管理に関するセッションを主催します。15 日には、

同地域のファイナルセッションが開催され、水問題解決にむけた具体的な行動計画が発表される予定です。

## 4. サニテーションを世界でリードするJSC



日本サニテーションコンソーシアム (JSC) はヴェオリアと、テーマプロセスにおいて「リサイクルと再利用—都市のための有益な資源」を開催しました。モナコ公国大公のアルベール2世をはじめ約 100 人が参加。世界各国におけるリサイクルの現状や民間からの提案など水の再生、再利用に関する認識の共有が行われる中、日本における下水処理水や汚泥の再利用などの先進的な事例紹介が注目を集めました。

## 5. 「水・食・農」水田水管理ネットの展開 INWEPF ワークショップ



アジア・モンスーン地域の 17 カ国8団体が構成する INWEPF (国際水田・水環境ネットワーク) が 13 日、大邱市の EXCO 内でワークショップを開催しました。2003 年に日本で開催された第3回世界水フォーラムでの「水と食と農」大臣会議をきっかけに、日本の呼びかけで生まれた INWEPF は、水田の水管理を通じて、同会議で採択された3つの挑戦—「食料安全保障と貧困軽減」「持続可能な水利用」「パートナーシップ」—の実現に取り組むプラットフォームです。

“水田の水管理向上のための地域ネットワーク強化”をテーマとし、サイドイベントとして実施された今回のワークショップでは、日本委員会事務局 (農林水産省農村振興局設計課) や各WG担当者がこれまでの活動を振り返り、今後の活動を議論。連携をさらに強める方針を確認した上で、対象地域・分野の拡大なども提案されました。

# 今日の人

国土交通大臣 兼  
水循環政策担当大臣  
太田 昭宏氏



統合水資源管理の会合で議長を務め、水に関わる「災いと恵み」の双方の視点から防災と水循環の重要性などを発信しました。会合終了後、「水問題に対して日本が強いリーダーシップをとっていくことは極めて重要」と国際展開の方向性を話す一方、国内政策にも「これから出水期を迎えます。やるべきことはしっかり推進させていきたい」と国会での水関連法の議論、水循環基本計画の策定や8月1日「水の日」に向けた取り組みにも意欲を示しました。

環境省政務官  
高橋ひなこ氏



持続的な水管理と生態系保全の円卓会合に出席。アジア水環境パートナーシップの取り組みや、地元・岩手の北上川の公害克服を世界に発信しました。かつて栄えた松尾鉱山からの鉱毒水は、北上川下流の水環境を悪化させました。北上川の水環境対策に尽力したのが県議会議員を務めた高橋政務官のご尊父。政務官自身も、水への思いは人一倍強いそうです。「水は生きていく上で一番重要です。日本には経験と実績、そして世界で行動できるネットワークがある。必要なことはみんなでやるのが大切」と、明るい笑顔で水問題への意欲を語りました。



日本水フォーラムが事務局を務める、ノーザン・ウォーター・ネットワーク（NoWNET）。先進国間で水課題共有等を行う組織で、そのセッションが13日、日本パビリオンで開催されました。

# 今日の言葉



日本水フォーラム 副ディレクター 浅井重範

日本の叡智を世界へ、そして未来へ届けるべく、「世界と日本の架け橋となって、日本の持つ懐の深い水文化を世界の方々に知ってもらう“突破口”の役割を担っていきたい」。

発行：特定非営利活動法人 日本水フォーラム

〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町5-4 アライズ第2ビル6階 URL: <http://www.waterforum.jp>

取材協力：日本水道新聞社 東京都千代田区九段南4丁目8番9号 日本水道会館1F URL: <http://www.suido-gesuido.co.jp>

※この速報は、日本の皆様に、世界水フォーラムの議論の内容や、日本の関係者の皆様の活動をお伝えするために、日本水フォーラムがとりまとめているものです。

内容は、速報暫定版のため後日修正されることがあります。発行予定は予告なく変更することがあります。